

豪雨災害対策に期待の舗装材

清本鉄工 (武雄市に事業本部) が製品化

武雄市山内町に鉄鋼事業本部を置く清本鉄工(本社・宮崎県)は、鋼を生産する際に発生する「鉄鋼スラグ」を再利用した新たな道路舗装材を製品化している。車道

に対応した強度を持ち、透水性と保水性にも優れ、降雨時の急な増水を抑制する効果が期待される。鉄鋼スラグのリサイクルで環境に配慮するとともに、近年頻

発する豪雨災害対策の一つとしても注目を集めている。舗装材の製品名は「ぼどれすロード」。粒度の大きい骨材を使用し、透水性と保水性を併せ持つポーラスコンクリート舗装で、「水たまり(パドル)をなくす(レス)」という意味合いが込められている。昨年春から本格販売し、今年7月には国土交通省の

鉄鋼スラグを再利用した道路舗装材「ぼどれすロード」



国交省の「NETIS」にも登録

の新技术情報提供システム「NETIS」にも登録された。

関連会社の九州製鋼佐賀工場が、鉄スクラップを電気で溶かす過程で発生する鉄鋼スラグを100%利用している。鉄鋼スラグは冷えると石のようになり、これまで道路や駐車場の舗装の下に敷く路盤材として使用してきたが、さらなる有効活用につなげようと舗装材を開発した。

「ぼどれすロード」は、スラグを砕いた直径2〜13mmの粒。セメントなどと配合して車両の通行にも耐えられる強度を確保した。舗装した場合、多くの隙間が確保されて車道に雨水がたまりなくなるほか、地盤が持つ吸水性を活用して、急激な河川の増水を防ぐ効果も見込まれる。保水性もあり、気化潜熱などでアスファルトに比べて表面温度が4〜

9度低くなるという。近年は「数十年に一度の豪雨」が、全国各地で毎年のように繰り返されている。佐賀県内でも豪雨災害は頻発し、同社のある武雄市も2019年、21年の豪雨で大きな被害が出た。「ぼどれすロード」は、JR武雄温泉駅南口の一部や武雄市民体

育館の駐車場、市内中学校のプールへの通路など、少しずつ活用が広がっている。同社は「一般的に舗装材はアスファルトが中心で、コンクリートの舗装材は普及していないのが現状だが、透水性などの特徴をPRし、普及に努めたい」としている。

育館の駐車場、市内中学校のプールへの通路など、少しずつ活用が広がっている。同社は「一般的に舗装材はアスファルトが中心で、コンクリートの舗装材は普及していないのが現状だが、透水性などの特徴をPRし、普及に努めたい」としている。

「ぼどれすロード」を使用した例



JR武雄温泉駅南口



武雄市民体育館の障害者駐車スペース